

2018（平成30）年度 特許情報普及活動功労者表彰

特別賞

国立研究開発法人産業技術総合研究所 フェロー
人工知能研究センター 研究センター長
辻井 潤一

ご功績について

辻井氏は、1973年に京都大学大学院修士課程を修了され、1979年から京都大学助教授、その間、フランス CNRC 上級研究員を経て、1988年にはマンチェスター科学技術大学（UMIST）教授にご就任。1995年から2011年、東京大学教授、その間、マンチェスター大学教授を兼任し、マンチェスター大学でのテキストマイニング・センターの所長を務められる。その後、2011年にマイクロソフトリサーチ・アジアの首席研究員に就任され、2015年5月より現職の、産業技術総合研究所人工知能研究センター センター長を務められています。

辻井氏はこの間、名だたる国際学会の会長を歴任されると共に、知能情報学の分野、とくに自然言語処理の研究で、機械翻訳における先駆的な業績、ならびに、深い言語解析や意味に基づくテキストマイニングの新たな手法の開発などで国際的に高く評価される研究成果をおさめられ、これらの輝かしい業績に対し、紫綬褒章を授賞される等、様々な形でその功績が称えられています。（下記参照）

日本 IBM 科学賞	1988 年
香港 SEYMF 招聘教授賞	2000 年
大和エイドリリアン賞	2004 年
IBM Faculty Award (Eclipse Innovation Award)	2005 年
人工知能学会業績賞	2008 年
紫綬褒章	2010 年
情報処理学会功績賞	2013 年
船井業績賞	2014 年
大川賞	2015 年
国際機械翻訳協会 (IAMT) 栄誉賞	2017 年

一方で、特許情報との関わりについて辻井氏は、アジア太平洋機械翻訳協会（AAMT）の会長だった2003年に、特許情報の翻訳と各国に出願される特許の言語資源としての重要性に着目し、特許情報の機械翻訳研究を対象とした AAMT/Japio 特許翻



訳研究会の発足に尽力されました。その後、15年以上の長きにわたり、特許機械翻訳や機械翻訳対象となる日本語の研究、その普及活動等に携わり、現在も、特許翻訳研究会の委員長、産業日本語研究会の世話人として、指導や助言等の形でこれらの研究に貢献されています。

また、おなじく AAMT 会長時代には、機械翻訳と特許情報の知見を広めるための国際的な場の必要性を提案し、その結果、機械翻訳の国際学会「MT-Summit」において、特許翻訳研究会の主催で「特許翻訳ワークショップ」が開催されることとなりました。「特許翻訳ワークショップ」は現在も継続的に開催されています。

現在では、特許情報の調査・分析に機械翻訳を活用することはごく当たり前の事項となり、一般的に、他分野と比較して特許情報の機械翻訳精度は非常に高いと言われますが、これは、研究の初期段階における「特許情報に対する機械翻訳の適用」が、その技術開発に大きく貢献し、さらにその研究成果を特許情報業界に普及していったことが、結果として、現在の様な高精度の機械翻訳につながったものと考えられます。

さらに、辻井氏が研究対象とされている人工知能（AI）技術についてもここ数年、特許情報への

適用に関する研究が、特許庁をはじめとして、特許情報業界全体において様々な形で進められてきており、辻井氏はその第一人者として、特許情報へのAI技術の適用に関しても、相談役等の形で貢献されてきました。

辻井氏のこれまでの機械翻訳や人工知能に関する先駆的な研究と、それらの研究を特許情報と結びつけてこられたご活動は、これまでの長きにわたり、特許情報普及の分野における技術の発展と進歩に対して多大な貢献をもたらしてきたものであり、逆に言えば、それらのご功績が無ければ、現在の特許情報分野における関連技術の発展はあり得なかったものと考えられます。

今年度は、特許情報普及における上記ご功績を称え、また、感謝の意をこめて、通常の枠組みとは異なる「特別賞」という形で、辻井氏を表彰させていただきます。

このたびは、「特許情報普及活動功労者表彰」において、「特別賞」をいただきまして、誠にありがとうございます。

私はこれまで、計算言語学、自然言語理解、その応用としての機械翻訳とテキストマイニング等の分野で、様々な研究を行ってまいりました。特許情報との関わりについては、アジア太平洋機械翻訳協会（AAMT）の会長時代に国際学会等でも特許情報が話題となる様になり、特許情報の言語資源としての重要性に着目していたところ、ちょうどその頃、日本特許情報機構（Japio）さんとのご縁があって、AAMT/Japio 特許翻訳研究会の発足に協力させていただきました。

特許翻訳研究会では、発足当初よりこれまで委員長を務めており、特許翻訳に関する各種研究を行うと共に、MT サミット併設の特許翻訳ワークショップの開催など、特許翻訳の研究成果をより広く普及し



国立研究開発法人産業技術総合研究所 フェロー
人工知能研究センター 研究センター長
辻井 潤一

ていくための活動も進めてまいりました。今回、これまでのこのような活動が、特許情報普及に貢献したと認めていただけたとのことで、たいへん感謝しております。

私は現在、産業技術総合研究所 人工知能研究センターのセンター長として、これまでの研究成果を利用した人工知能（以下、AI）に関する取組を進めておりますが、これまで、Japio YEAR BOOKにも何度か執筆させていただきました通り、AIの研究はここ数年、非常に大きな技術革新の時代を迎えております。

AIの基礎研究は世界中で精力的に進められ、急速に発展していますが、日本にも産・学・官の各分野に優秀な研究者集団が存在します。そこで、彼らが持つ独自のデータやノウハウをつなぐオープンイノベーションの「場」を、私たち「人工知能研究センター」が提供し、産・学・官が連携して、世界に負けない高度なAI研究を進めていきたいと考えています。

特許庁においても昨今は、AI研究が非常に盛んに行われていると聞いており、また、機械翻訳分野をはじめ、特許情報はその言語資源としても、AI研究を進めるにあたって非常に重要な存在であると考えております。

人工知能研究センターとしましても、今後ますます特許情報との関わりを深め、その研究成果を特許情報処理に適用していくと共に、知財の分野も巻き込んだ形で高度なAI研究を進め、日本全体としての産業発展を目指していきたいと思っております。このたびはどうぞ、ありがとうございました。